

No.45 ディスカッション

今回は、「ディスカッション」についての情報提供をします。

ダイアログの目的は探求や発見であり、ひとつに結論づけないものではありませんが、それとは対極にあるディスカッションを考えてみることで、その違いからダイアログを感じ、そして関連している部分をより活かせるようになります。

ダイアログを日常に取り入れて、自分という人生を歩みたい人が足を踏み出せる、この資料がそんなきっかけになれば嬉しいです。

ディスカッションとは議論や討論のことで、会議などの場で何かを決めたい時など、結論を出すために行われる話し合いの場の種類のひとつです。日本人の多くはこの形式に慣れていて、話をする＝場としての結論を求める、ということが習慣づいているなどと感じることが多いです。

ディスカッションも、今のところこの世からなくなることはない、これから先も必要な場面が多々ある話し合いの仕方ですが、出逢った人たちから話を聴いている中で、ディスカッションでの話し合いの場を楽しくないものになっている要素を見つけることができました。

それは、合意された基準で結論づける、ということが失われている、ということです。

当たり前のことのように思われるかもしれませんが、意外とこの大切なことは行われていません。なんとなくの、その場に参加する人それぞれが持つばらばらの基準、もしくは、その場で一番権力がある人が持つ基準、といったカタチで話し合いをする前に、その場の全員が意味を共有し、納得した上で合意した基準でディスカッションが行われることはあまりないようです。

しかもこの基準、後から決めることはできないんです。話し合いをしていて意見が対立した時に判断するための基準を決めるとします。その時、無意識に働く心理は、「自分の意見が有利な基準をつくろう。」そういった心が自然と働きます。これは対立関係がひどければひどいほど、あとから判断基準を設けることの公平さを失っていくものです。

例えば子供の頃を思い出して下さい。誰かひとりが遊びのルールを考えたとしたら、それは公平な、誰もが納得できるルールでしたか？

きっとその多くが、ルールを考えた子が楽しく、そして有利なルールが作られて、その子が何度か続けて勝利すれば、他の子は嫌になって遊びを投げ出す、そんな場面に1度は出くわしたことがあったのではないのでしょうか。

結局、大人になってもその心理、自分の方が勝ちたい、とか、自分の方が正しい、とかいった心理が働きがちです。

この基準を合意するための時間にダイアログを用いることがとても有効なのですが、きちんと合意された基準の中に、「時間になったら最終的に多数決で結論を出す」ということが含まれていれば、多数決でも不満の残らない、納得した状態で終われる話し合いもあるのです。

基準が曖昧でもリーダーに対する信頼が厚く、リーダーの判断に従うという関係性であれば、それもまたうまくいきます。ただし、リーダーではなく権力者にとって有利な基準に偏ることが増えれば増えるほど、納得のいかない意思決定の場がどんどん増えていくのでしょうか。

納得のいかないディスカッションの場は、終わってみると勝者と敗者のような構図になります。正しさと正しさをとにかくぶつけ合ったような状態なので、大げさに言うようですが、私からすればと人殺しをしない戦争と同じようなものです。

そんな場に生まれるのは優越感と劣等感。その流れにはまってしまうと優越感を得るために人は動き、結果的に優越感を得たとしてもより大きな劣等感に苛まれ。そんな自分を充たすことのできない、なんとも心地悪いくり返しの中で過ごすことになります。

では、優越感や劣等感を生まないディスカッションを行うにはどうすればいいのか、それは場の参加者全員が合意できる判断基準をダイアログしながら、過ぎ去った認められない自分に OK を出していくことが必要になってきます。

「どうせ変わらないんだから何をやっても仕方ない。」そんな声も聴こえてきそうですが、もし心からそう思うのであれば私はそれもアリだと思います。心の声に従うことが大切だと思って旅を続けているので。

何かやろうとする時に、人から邪魔されることはとても不快で、例えばディスカッションの前にダイアログを行おうとします。すると言われる訳ですよ、「なんでそんなことする必要があるんだ。」とか「時間のムダだ。」とか。とってもとってもめんどくさいですね。

でもここで視点を変えてみます。

「その出来事によって自分の何を守っているのでしょうか。」

全然関係ないことに思えるかもしれませんが、実は大きく関係しています。こんな時には「みんなから嫌われそう。」とか「みんなから攻撃されそう。」とか、自己防衛のための行動に無意識に出て、環境を変えるための行動を諦めてしまう訳です。よくあるのが「どうせ言ってもダメだから。」って。

自分たちの未来に向けての行動を自分たちで決めること、私はこんな世界で生きることが望ましいです。いろんなことを自分ごとに捉えて、自分たちの目の前にある問題を先延ばしにしないこと、そんな世界が望ましいと思っています。

それを実現するための問いは「どうやったら実現することができるか？」だと思うんです。できない理由を並べているうちは、変わることを怖れている、そんな状態なのかもしれませんね。

自分の中にある結論をぜひ信頼して、また新たな行動をとってみてください。そうすると目の間に見えるものたちが変わって、自分という存在を感じる機会が増えますよ。そうすればより毎日が楽しく感じれるかもしれません。

勘のいい方は気づいているかもしれません。実は今回のディスカッション、自分で何かを決める時にも活用できます。ただし、きちんと自分で基準を設定して、その基準を持って自分の行動を決める、そういった流れになります。人とディスカッションするのと違いがあるとしたら、それは感情が入り混じり、流れに矛盾が起きやすいことです。

僕らはダイアログやディスカッションするのは今という時間であり、今という時間の中に、過去も未来も集約されています。「No.42 自分とのダイアログ」のような純粹なる探求の時間も、今回のような基準をもとに思考を巡らせる時間も、どちらが良いとか悪いとかではなく、目的に応じて使い分けるものなので、まずは目的云々感じれる程度、実際にその流れを味わってみて下さい。そうすれば、おのずと使い分けできるようになりますので。

今回は「No.45 ディスカッション」のお話をしました。次回は「No.46 コントロール」の話します。

「ダイアログの場には勝とうとする人はいません。」この言葉がダイアログのすべてなのかもしれません。目的が探求や発見することであるだけで、あとは勝ち負けも、正解不正解もない、そんな特殊なやりとりです。

あなたがうまくいったなと思うことでも、うまくいかなかったってことでも、あなたが実際にダイアログしてみた話をぜひ私に教えてください。それがまた私たちの探求や発見につながっていきますので。

ダイアログの教科書 No.45 ディスカッション

投稿日 2015/07/08 ・ 最終更新日 2015/07/08

発行 COBAKEN LIFESTYLE LABO <http://cobaken.net>